

坂井地区高校再編の推進について（案）

平成25年2月 高校教育課
教育振興課
学校教育政策課

I 新しい総合産業高校について

1 新産業高校の概要

坂井地区には、農業や工業をはじめとする地元企業や研究機関が多い。今後は新幹線も開通し、サービス業等も含め、地元で総合的に活躍する人材育成のための環境を整えていく必要がある。こういった地域の特性や時代のニーズに対応した職業教育を推進するため、総合産業高校を設置することとした。

また、学校規模を拡大することにより、部活動や学校行事などが充実でき、新たな就職・進学先の開拓や情報共有により、進路支援体制も強化できる。新産業高校では、特に次の項目に力を入れながら学校の魅力を高めていく。

1、新しい技術・分野の学習

- ・工業：電気自動車技術、レーザー加工、最新IT、ハイブリッド発電等
- ・農業：バイオテクノロジー、環境制御栽培、集団営農の経営手法等
- ・商業・家庭：e-ビジネス、最新マルチメディア、観光等

2、企業等と連携した校内外実習

- ・各学科・科目の実習内容に対応した施設・設備を校内に整備
- ・併せて、企業と連携した実践的な校外実習を実施
- ・サポーター制度：授業や実習等に地元産業界の資材・人材を活用
- ・産業支援センター等との連携：支援協定や出前講座を依頼

3、6次産業化に向けた取組み

- ・生産物や加工品と併せ、オリジナル商品を企画・開発して販売。仕入れや利益管理等も生徒主体で行うプロジェクトを計画

4、進学にも対応した進路実現・学校活性化

- ・県大（生物資源学部・経済学部）等との高大連携
- ・教員の資質向上：新しい技術に対応するため、企業や大学等での教員研修

高校名	学科名	学級数	定員数	備考
坂井総合 産業高校 (280)	ビジネス・生活 デザイン科	2	70	商業科 家庭科
	機械・自動車科	2	70	工業科
	電気・情報科	2	70	
	農業科学科	2	70	農業科

※学校名、学科名は仮称。学級数、定員数は1学年当たりの見込み数

2 施設設備計画(案)

農業、工業、商業、家庭の4つの専門学科を基本に、様々な産業に関する学習を行うことができる教育体制を整備する。校地内に「農業ゾーン」、「工業ゾーン」、「総合実習ゾーン（農業・商業・家庭）」、「学習・スポーツ交流ゾーン」を設定し、学科を横断した実践学習を計画。

1、主な整備内容

箇所	整備概要
第一体育館	生徒数増に伴い、拡大して新築（面積 1,587 m ² ）
テクノラボⅠ～Ⅲ（仮称）	グラウンド北側に、最新設備を導入し新築（面積 5,423 m ² ）
総合実習棟（仮称）	第2実習教棟を改修。商業科実習室等を新設
本館	普通教室を整備。生徒玄関、図書室等を拡張
環境整備	学校規模拡大に伴い、前庭を駐車場に整備 グラウンドを野球やサッカーができる環境に整備（※）
別館（仮称）	第1実習教棟を全面改修。1学年分の普通教室、音楽室、第2職員室等を新設
サイエンス棟（仮称）	理科教棟を改修。美術室等を拡張
実習施設・設備	次世代技術に対応した実習設備を整備（農・工・商・家庭） 環境制御栽培、電気自動車等、カリキュラムの詳細と併せ検討

※ 上記のほか、坂井市等と協議しながら、校地等の更なる教育環境の整備や校内への進入路等の充実を検討する。

2、年次計画

第1期計画（平成24～25年度）：新1年生をスムーズに受入れる体制づくり

- ①第1体育館新築（1,587 m²）
 - ・全校生徒による入学式等の式典に支障がないよう開校までに整備
- ②総合実習棟（仮称）改修
 - ・商業系学科新設に伴う実習室整備

第2期計画（平成25年度末～26年度）：総合産業高校の特色づくり

- ①総合実習棟（仮称）改修
 - ・農業系実習室を高度集約
- ②テクノラボⅠ～Ⅲ（仮称）新築（5,423 m²）
 - ・平成27年度から新しい実習カリキュラムを本格的に実施するため、平成26年度中に整備
 - ・平成26年度中は春江工業高校の施設を活用（週に1日程度、バスにて移動）して基礎実習

③本館耐震改修

- ・授業に支障が出ないよう夏休み期間を中心に工事实施

④環境整備

- ・駐車場・グラウンド等の整備

第3期計画（平成27年度～）：より高度な総合産業高校へ

①別館（仮称）耐震改修

- ・普通教室・家庭科実習室等の改修

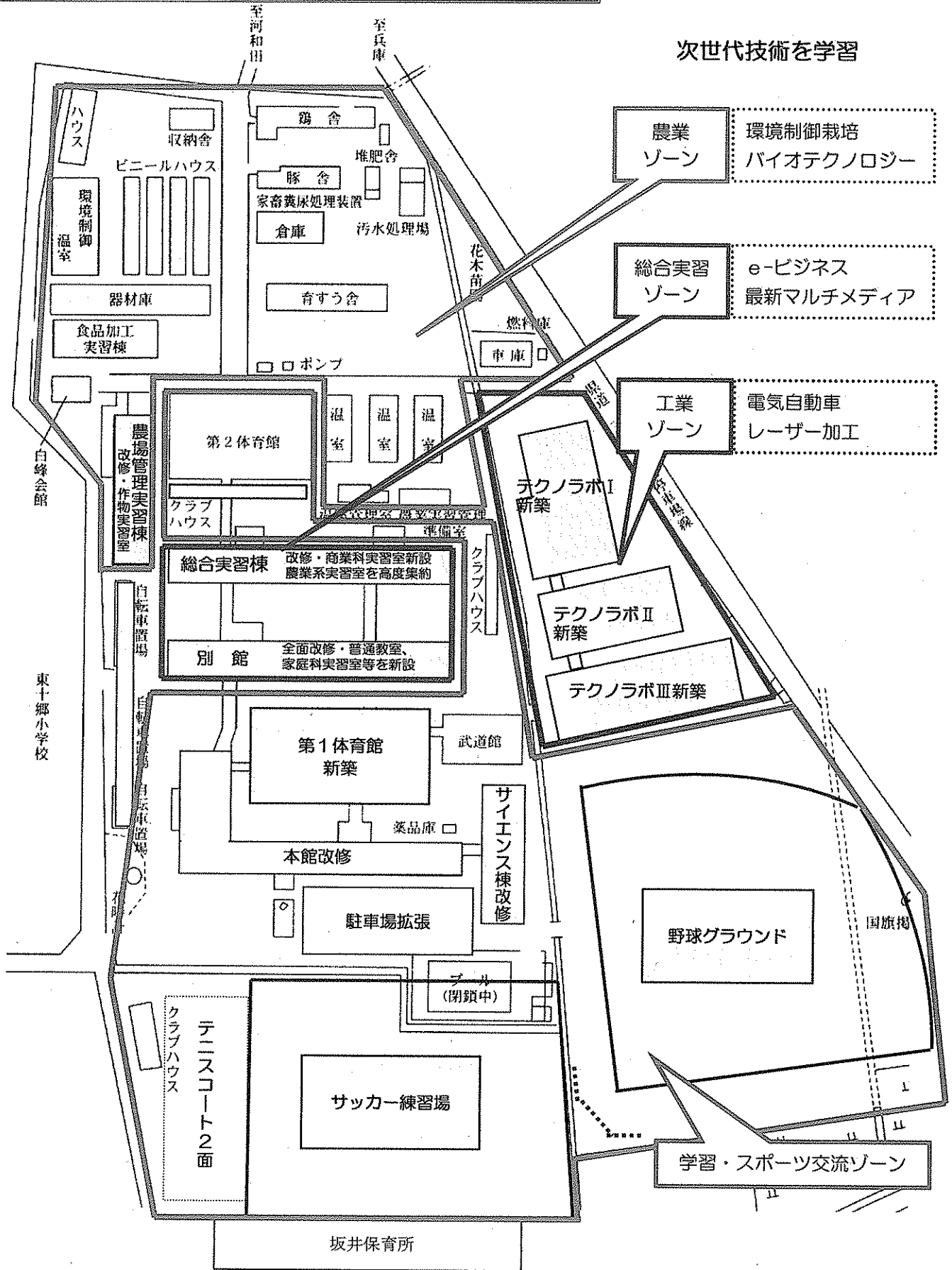
②サイエンス棟（仮称）耐震改修

- ・授業に支障が出ないよう夏休み期間を中心に工事实施

⇔：設計 ⇨：工事

施設整備実施計画		H24	H25	H26 開校	H27
1期 計画	第1体育館新築	⇔	⇨		
	総合実習棟 （仮称）改修		⇔ ⇨		
2期 計画	総合実習棟 （仮称）改修			⇔ ⇨	
	テクノラボⅠ～Ⅲ （仮称）新築		⇔ ⇨		
	本館耐震改修		⇔	⇨	
	環境整備			⇨	
3期 計画	別館（仮称） 耐震改修			⇔	⇨
	サイエンス棟 （仮称）耐震改修			⇔	⇨

坂井総合産業高校(仮称)施設設備全体計画 (案)



Ⅱ 坂井地区全体の高校教育について

1 坂井地区普通科3校について

◆ 三国高校

- 「医療福祉コース（仮称）」の設置を検討
 - ・地域には関係施設が多く、コースに対する中学生の設置希望も高い。
 - ・「社会福祉基礎」や「基礎介護」等、2年次より設定し、2年間で8単位程度の専門科目を現在検討中

◆ 金津高校

- 国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の充実
 - ・グローバルな視点で課題解決型の学習活動、対話型の英語教育
- 幅広い進路に対応したキャリア教育
 - ・「IPT（※）」の学習
※Intellectual Power Training。「総合的な学習」の学校としての名称。課題研究・ディベート・創作活動等を通し、課題解決力や創造力の伸張を図る実践
- 地域社会や大学などと連携した教育
 - ・学校設定科目「地域探究」の設置を検討、県内大学との高大連携

◆ 丸岡高校

- 部活動の強化
 - ・サッカー部、新体操部、剣道部の強化種目を中心に、全体の大会成績向上
- 進路実現に向けたキャリア教育の強化
 - ・インターンシップや探究的な学習による進路意識の向上
- 地域交流プログラムの作成
 - ・総合的な学習の時間の活動の強化、部活動生徒の地域活動への参加

2 春江工業高校と坂井農業高校の在校生の卒業までの対応について

- ・春江工業高校は、従来の伝統ある工業教育に加え、地域企業と連携のうえ新産業高校の教育内容も取り入れていく。
- ・坂井農業高校は、新産業高校の教育内容を先取りして、集団営農の経営手法の学習など、農業関係者との連携を強化する。

3 春江工業高校跡地利用の考え方

- ・在校生が卒業する平成28年3月までは、生徒の学習に支障がないよう教育環境を保つ。
- ・平成28年4月以降の春江工業高校の校舎等のあり方については、現在の学校施設の有効活用と地域の活性化につながる利用を進めていく。
- ・また、新たな総合産業高校の生徒が、引き続き実習や生徒主体のプロジェクト等に利用できる施設としての活用も図っていく。

4 坂井地区教育コンソーシアム構想

- ・坂井地区全体の将来の当該地域を担う人材育成の教育フィールドと位置付け、4高校、県立大学、産業支援センター、工業技術センターや地元企業等との連携のもと、関係者による協議会を設置する。